

「PCB廃棄物処理の検討要請に関する公開シンポジウム」実施結果

1 日時・場所

(1) 日時：平成26年1月22日(水) 18:30~20:00

(2) 場所：若松市民会館 大ホール

(3) パネリスト：浅岡 佐知夫（北九州市PCB処理監視会議座長。元北九州市立大学国際環境工学部教授）

浅野 直人（北九州市環境審議会会長。福岡大学法学部教授）

成田 裕美子（北九州市PCB処理監視会議委員。自営業専従者）

松永 和紀（北九州市環境審議会委員。科学ライター）

塚本 直也（環境省廃棄物・リサイクル対策部産業廃棄物課長）

入江 隆司（日本環境安全事業(株)北九州事業所副所長）

山本 郷史（日本環境安全事業(株)事業部長）

松岡 俊和（北九州市環境局長） 等

(4) 参加市民：174名

2 シンポジウムの概要

これまで市民から高い関心が寄せられた「処理の安全性」と「計画的な処理」の2つの論点について、国の説明を受けてのパネルディスカッション、さらに議論を聞いた会場との質疑応答が行われた。

3 主なやりとり

[①処理の安全性について]

(パネルディスカッション)

質問・意見	国の回答
➤ 10年間、安全面で市民に一度も不安を与えない確約を。	➤ 未然防止をモットーに時間も手間もケチらず点検や部品交換を行い、国も補助する。今後も技術者が毎日点検するので安心を。
➤ 他地域からのPCB受入れ処理のノウハウや輸送面に問題ないのか。	➤ 処理のノウハウは事業所間の相互評価や技術交流を今後もやっていく。 ➤ 広域の運搬はこれまでの厳しい規制を継続しつつ、環境省・JESCO・関係自治体が連携して安全を確保する。
➤ 技術力に差があるため、北九州にお願いせざるを得ないのではないのか。	➤ 事業所間の得意不得意を組み合わせる中で、優れた処理施設、人材、技術、行政や監視会議を有する北九州にお願いするのが最善で唯一の道。

(会場との質疑)

質問・意見	国の回答
➤ どうして海外で行われる焼却を採用しないのか。	➤ これまで各地で焼却を受け入れられなかったため、化学処理方式を採用した。
➤ 10年間辛抱してきたのに押しつけられることに怒りを覚える。東北のような大津波が来たら大丈夫なのか。	➤ 東南海地震も含め、最新の知見に照らし、安全性を確認している。

[②計画的な処理について]

(パネルディスカッション)

質問・意見	国の回答
➤ 北九州以外の関心の低い地域での悉皆調査では、異なる結果となるのではないか。	➤ 他地域でいくつか行った調査結果でも、新たに見つかった機器の割合は、北九州と同様の2%程度。
➤ 使用中機器の把握は本当にできるのか。	➤ 所管の経済産業省や、日頃点検している電気保安関係団体などと連携することで全体を把握する。
➤ 優秀な北九州に任せるだけでなく、他地域でもちゃんとやるべきことをやった上でお願いしているのか。	➤ 他事業所でも施設改善などできることは全てやった上でお願いである。
➤ 特にプラズマ処理する安定器の計画は適正か。後からどんどん出てくるといったことはないか。	➤ 安定器の破裂事故を契機に、全国の建物の点検を行い把握しており、その保管量をもとに処理期間を設定している。

(会場との質疑)

質問・意見	国等の回答
➤ 後から出てくるのが心配であり、今回で止めてほしい。最後までやらされるのか。	➤ これからは新しいものはそう多く見つからないため、見つけたものは全て期間内に処理を終了する。
➤ 技術があるなら別の場所で施設を作るべき。一度約束を破った話は信用できない。(意見)	
➤ 追加受入の6,000 トンを民間施設に任せられないのか。	➤ 全て高濃度であり、低濃度を処理する民間の無害化施設では処理できない。
➤ 処理施設は焼結工場の跡地にあり、暗い関係があるのではないか。	➤ 立地プロセスは適正で、ご指摘のような関係はない。
➤ この事業でどれくらいのお金がかかっているのか。	➤ 全国5ヶ所で年間250億円、北九州事業所で80億円。施設整備は5ヶ所で合計1,700億円、北九州のトランス・コンデンサ処理施設で450億円。

(総括)

- 未把握分は、電気事業法を所管する経済産業省と連携し、これ以上増えることのないようにしていただきたい。

以上